

第11回 復興地に学ぶ会

「復興地という場をお借りして

人としての生き方を学ぶ会」

活動報告



石巻市 金華山（牡鹿半島）

2012.4.27－4.30

【第11回 復興地に学ぶ会 行程表】

(ルート) 名神→新名神→東名→伊勢湾岸→東名→首都高速→

→東北道→仙台南部道路→仙台東部道路→三陸道 (合計約1000km)

4月27日(金)	18:30	JR尼崎駅 南側バスロータリー 受付			
	19:00	バス出発			
28日(土)	7:00	石巻港IC(高速道路)から一般道へ			
	7:15	門脇小学校前を通過			
	8:30	牡鹿ボランティアセンター(鮎川浜) 到着			
	9:30	鮎川浜より金華山へ船出発			
	10:00	第1日目 作業開始			
	17:00	作業終了 → 宿泊施設へ → 夕食			
	18:00	体験発表会			
	23:00	消灯			
29日(日)	5:30	清掃			
	6:30	ラジオ体操→朝食			
	8:00	第2日目 作業開始			
	10:30	活動終了→金華山散策			
	12:30	金華山から鮎川浜へ船出発			
	13:30	牡鹿仮設商店街散策(各自昼食)			
	15:00	牡鹿ボランティアセンター出発			
	16:30	大川小学校到着→ご冥福をお祈りする			
	17:00	道の駅(上品の湯)入浴+夕食=2時間			
	19:00	バス出発(帰路)			
30日(日)	8:00	JR尼崎到着 解散			

参加者(年齢別人数)

(10代)7名(20代)14名(30代)4名(40代)4名(50代)3名(60代)1名(70代)1名(80代)1名

第十一回「復興地に学ぶ会」体験記

★★★京都府70代 女性★★★

今回初めて参加させて頂きました。前から復興のお手伝いをさせて頂きたいと思っておりまして、たけれど時期を待っておりませんでした。京都大学院生の相賀様にお願ひしておりました所今回参加の運びになり素晴らしいメンバーに入れて頂き感謝でいっぱいです。リーダーの大谷先生をはじめ日本を美しくする会と便教会、掃除に学ぶ会の皆様心より感謝感謝申し上げます。深くお礼申し上げます。

大谷先生の段取り100%ののっかり連れで行って頂きこんなに感動したことはありませんでした。久井様のふえの音色、おちつきました。大川小学校の亡くなられた方々や石巻の方々にふえの音色、届きありがとうございますと言つて下さったように思いました。又、遠いところからお参りに来て下さいましてありがとうございますと言つておられるのではないのでしょうか。

四日間あつと言う間に過ぎました。又参加させて頂きたいと思ひます。よろしくお願ひします。三十六人の皆様様ドライバー様ありがとうございます。ご苦勞様でございます。感謝でございます。

★★★兵庫県60代 男性★★★

【壺中の天】

費長 房は役所の楼望から夕方の慌ただしい市場の様子を見るときもなく見ていると葉売りの老人が店をたたむと壺の中に身をかくしてしまふ、それをみていた費長 房は老人を口説いて壺の中に入れてもらふ、そこには美しい山水があり、金殿玉楼があつて歓待を受けて帰つてきた。(中国の後漢書)

此のたびの「復興地に学ぶ会」金華山はまさにこのような島でした。

行く前には二月の谷川小学校の暴風雪の中の瓦礫撤去作業があり三月は同じ金華山での難渋の作業の話を聞いており、相当の覚悟で参加しましたが、案に相違して金華山は雲ひとつない快晴で、桜は満開、海はあくまで碧く、ひねもすのどかな風情はあの3・11多くの人を呑み込んだ荒々しい海を想像することもできませんでした。

金華山は不思議な島で無人の島という、あるのは聖武天皇の御代に創建されたという「黄金山神社」が鎮座しますのみ、あれだけ立派な社殿を維持するには相当の維持費がかかり、船に乗つてやつて来る参詣者の数もしれているのにと余計な詮索をしてしまふ。

【掃除と想うな人生と思え】

二日間にわたつてさせて頂いた仕事は、来る大祭と神輿渡御の為の参道の掃除と広い公園の主として野生の鹿の糞の除去作業である。これが案外簡単なようで厄介な作業で、掃いてもはいても糞は残っている。そのうち隣の人と立ち話になり手が疎かになったりと、実はこういう単純作業の中にその人の性格や、人間性がにじみ出てくるように思います。

数年前ある高等学校にトイレ掃除に出かけました。サッカー部だったのでしようかユニフォームに「クラブと想うな人生と思え」という標語の書かれたワッペンが張り付けてありました。その時はあまり気にも留めなかったのですが、時を重ねるうちにだんだんその標語が頭に重くのしかかってくるようになりました。習慣というものは恐ろしいものでそれが良いにつけ悪いにつけ、後の人生に影響を及ぼし又及ぼしてきたと思ひます。そんなことを考えながら今の自分はどうかと思ひながら箒を握っていました。

【鎮魂の笛】

「被災地に学ぶ会」で一番させて頂いたことか、つたことは、多くの人が或いは家具の下敷きになり、あるいは津波にさらわれて尊い命を亡くされた、その人たちに哀悼の意を捧げるとともに、御霊安かれと海に向かって鎮魂の笛を吹かせても

らうことでした。大川小学校では『回吹かせていただき、今回は金華山から満天の星空のもと、上弦の月が辺りを照らすなか、多くの人を呑み込んだ海に向かって笛を吹かせていただき願いをかなえさせていただきました。』

この度の「復興地に学ぶ会」は不思議な島『金華山』で、多くのものを学ばせていただきましたこと感謝します。ありがとうございました。

★★大阪府50代 男性★★

JR尼崎駅に着いて、少し早い夕食を取った私は集合時刻までの三十分間を、近くの散策に当てました。駅からほんの五百メートルほどのところに、私の母校である小田南中学校があるからです。四十年ぶりの中学校の姿を感慨深く眺めた私は、

学校の周りを歩いていました。クラブの帰りにチエリオをよく飲んだお店がありました。土曜日に内緒でお昼を食べに行つた「めしや」もありました。そして、あそこの路地を曲がったら、小さなたこ焼き屋さんがあったと思ひだし、路地に入つていくと、そこにはまさしく昔のままの小さな小さなたこ焼き屋さんがありました。まだやつてるんや！学校を一周する間に、走馬燈のように中学校三年間の日常がよみがえってきたのです。四十年という長い年月を飛び越えて、懐かしい懐か

しい想いをさせていただきました。

その時、ハッと気づきました。被災地の皆さん、そして被災地出身の皆さんには、がれきと化した母校、そして何にもなくなつて更地と化した学校周辺しかありません。町がなくなるといふことは、ある意味、思い出をも失うことだと実感させられました。私にとつて復興地に学ぶ会は集合前からすでに始まっています。

実際、大川小学校とその周辺は、まさに更地でした。そして校舎のそばには、時節柄たくさんの鯉のぼりが、勢いよく泳いでいました。もちろんそこで亡くなられた子ども達の想いを汲んでの鯉のぼりでしょうが、私には、つらいつらい鯉のぼりに見えました。久井さんの鎮魂の笛の音を聞きながら、身動きできない自分がいたことをはっきり覚えています。

たとえ今後立派に復興され、立派な小学校や町並みができようとも、その姿を見て、昔の卒業生が、当時を楽しく思い出すことはあり得ません。帰りのバスの中での反省で、浅井先生が「大川小学校をいつまでも、あのように被害に遭つた状態で残してほしくない。取り壊してほしい。できることなら、昔と同じ形で建て直してほしい。そうすればなくなった子ども達も、そこに戻ってきて、楽しく遊ぶことができるんじゃないか」と言っておられました。まったく同感です。

そして第二避難場所に指定されていた場所が橋のたもとだったと大谷育弘先生から説明がありました。その橋の鉄骨が、川の数百メートル上流に突きささっている姿を見れば、結果論としては、そこに避難すること自体、意味がなかったのかもしれない。しかし迫り来る津波に備え、登られない裏山と川のすぐそばの第二避難所との間で、どう対処すべきか決断を迫られた先生方の苦悩は、いかほどだったのでしょうか。同じように子ども達を預かる身、いざというときの決断が自分にはできるだろうか、あらため防災についての心構えをさせていただきました。

最後にもう一つ付け加えたいことがあります。金華山に渡る高速艇を追いかけてくる海猫のかわいらしさに始まり、公園清掃中の突き抜けるような青空、私たちを待っていてくれたかのように咲き誇る桜、夜空には手が届くようなたくさんのきら星、初めて見る月影。これらの自然に私は本当に癒されました。私たち人間に牙をむく自然も、私たちがこうして優しく包んでくれる自然も、同じ自然です。自然の手のひらの中で、私たち人間は生かされている。そういう想いを強く強く感じました。そういう想いの中で、私が次にすべきことに全力挙げて取り組んでいこうと決意を新たにしました。

準備に携わっていただいたすべての方々、ご支

援をいただいたすべての方々、そして一緒に学ばせていただいた方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

★★京都府50代 女性★★

昨年三月十一日にテレビから流れた、衝撃的なニュースと、想像を絶する被害映像に、呆然と見入り、…何かさせて頂ける事は…と、僅かな寄付を重ねましたが、現地で何かさせて頂きたい…と、長い人生の中で、初めてボランティア心が湧きました。が、今は邪魔になるだけ、と、自分の無力さを悔やみ、チャンスを願う日々でした。一年か過ぎ、前回参加された方々のついで、誘って頂き大喜びしました。勿論現地の方々に失礼にならないよう、ご迷惑かけないように、頭の中で繰り返し言い聞かせて参加させて頂いたつもりでしたが…、結果は、実に貴重な一席を頂きながら、やはりそこに座る資格など持ち合わせていなかった事を痛感し、感謝と猛反省、申し訳ない気持ちで、いっばいです。

『復興地に学ぶ会』と銘打たれた行程表を拝見したとき、流石掃除に学ばれている方々は、基本姿勢が、素晴らしい！と感心しました。

激安な参加費の受付を済ませた後、バスの中で、今回の経費は、日本を美しくする会のサポートを

頂いてること、その他多くの方の支援も頂き、参加者は、すべて敷かれたレールの上に載っているだけであることを、諄々と説いて下さり、日本を美しくする会、そして大谷先生と今までの参加者が積み重ねて来られた実績に深く感謝致しました。更に運転手様も、大谷先生が、選ばれ、願わされた方であることを知り、自己紹介を兼ねた参加者皆さんの思いを伺うにつけ、この会の復興に対する思いの深さに、ただただ頭が下がり、身の引き締まる思いがしました。

門脇小学校、大川小学校に降ろして頂く前の、先生の説明は、細心の気配りがあり、私のような初心者も、陥りがちな過ちを、絶対させない、するなよ！という迫力に満ちたものでした。

車窓からの風景は『ここから』という言葉を合図に一変し、今、漸く季節が巡り来て咲く桜や、木蓮、菜の花等の僅かな彩りが、痛々しいくらい無彩色に感じました。

ボランティアセンターで見せて頂いたビデオには、被災された方々の悲痛な叫び声が響き、外へ出て、何もかも流され、広々と残る空間は、穏やかな春の陽射しに包まれてはいるものの、時が、止まったままのようでした。

…こんな私が、現地の方にお声掛けできる言葉は何も無いので、遠慮してましたが、のれん街で、買物した折に、店主方が、『あれこれ欲を言った

らキリが無いから、一年経ってこうして商売出来るようになって有り難いと思わなくちゃね』と明るい声でサラリとおっしゃった一言。金華山に渡して頂く船の船頭さんが、笑い飛ばしながら、生死を乗り越えられた様を語られる凄さに、腹の据わった生きる覚悟を感じさせて頂きました。

金華山の神社を拝見し、前回作業なさった奥の院への道を辿り、被害の修復に、沢山の方々が携わり受け継がれている事、寺田先生の貴重なお話、皆さんとの交流会で、聞かせて頂いた熱い思い、どれ一つとっても、大谷先生と参加者みなさんが、今まで細心の注意と深い思いで積み重ねて来られた結果、今回の学ぶ会が開かれていること、この地での復興のお手伝いの在り方を、実感として学ばせてもらいました。

体力は少しはお役に立てるかも…と厚かましく参加させて頂きましたが、氣遣って遠慮されてしまう年齢になつてる事を忘れていました。また、年齢の割に気付きの足りない自分であったことを実感致しましたので、やはり後方支援に回らせて頂くと思います。今回の貴重な体験を肝に命じて、改めてこれからの人生を耕し直します。日本を美しくする会の皆様、大谷先生はじめ参加者の皆様、大切な一席をお貸し下さり有難うございました。

★★大阪府50代 男性★★

第十一回「復興地に学ぶ会」に参加させていただきありがとうございました。いつもこの会に参加させていただいて思うのですが、この会が単なるボランティア活動をするだけの会ではなく、「復興地という場をお借りして人としての生き方を学ぶ会」とあるように、熱い思いを持った方々によって、毎回本場に多くの学び、気づきをいただいております。ありがとうございます。

とりわけ今回、寺田一清先生と一緒させていただいたことは、私にとって生涯忘れぬ思い出となりました。八十六歳というご高齢にもかかわらず、すべてのことに率先して行動され、また常に身を低くして取り組まれておられるそのお姿に神々しささえ感じました。本場にありがとうございます。また、寺田先生のみならず、京都から坂本孝子様、岩崎典子様、西宮から久井勝明様といった掃除に学ぶ会の大先輩がご参加くださり、一緒にさせていただいたことに本当に感謝申し上げます。ありがとうございます。

今回も前回に引き続き、金華山で活動をさせていただきました。五月八日に予定されています初巳（はつみ）大祭に向け、境内ならびに神域を清掃、整備させていただくのが中心でした。四百

頭をこえる鹿が生息しているとお聞きしましたが、神の使いであるその鹿の排泄物や散乱した木々、葉っぱを掃き清めることが主な内容でした。中には両手を使って抱え込むように鹿のフンを集めておられる若い方もおられ、頭が下がる思いがしました。広大な敷地も終わってみれば芝の緑が鮮やかに、また空の青さ、海の青さとともに満開の桜の鮮やかさが素晴らしい調和をなし、ここが被災した地域であることを忘れてしまうほどの美しさでした。今年は関西と東北で二度お花見を楽しませていただいたようなそんな感じがありました。

そんな華やいだ雰囲気の中で、金華山黄金山神社の権禰宜であられます日野様が終始笑顔でおられたことをうれしく思いました。前回お会いさせて頂いたとき、抱えておられる諸問題の大きさからか、どこか緊張した面持ちでおられたように感じました。恐らく、前回、東京および大阪のお掃除に学ぶ会の方々を中心とした献身的な活動に心を寄せていただけたのではないかと勝手に推測しています。

お掃除に学ぶ会の方々の「そこまでするか」と思わせる行動は、今の私の目標となっています。「丁寧生きる」と口でいうのは容易いですが、お掃除に学ぶ会の方々のある種、徹底したこだわりを意識して日々過ごしていきたいと思ってい

ます。私事で恐縮ですが、前回、岡山の沖久先生がなされていた、神社の階段を上から下まで掃かせていただくということを今回は非らせていたかどうかと思っていました。予想以上の大変さに途中で音を上げそうになったのですが、松浦先生や横山先生、大学生の大谷君、ボランティアセンターの弘光君、さらには寺田先生までかけつけてくださり、無事終えることができました。このときほど、仲間として、チームとして活動させていただいていることの有り難さを感じたときはありませんでした。ありがとうございます。

今回もまた、牡鹿のれん街の方々と触れ合う機会をいただきました。奈良の小峠先生が築いてくださった石盛様とのご縁はこれからも大切にさせていただきます。一枚のお葉書をこれほどまで喜んでいただいていたことに今更ながら葉書の持つ力を実感しました。寺田先生が、「あすこそは」という言葉で日常生活における基本を示してくださいました。「あ、あいさつ、す」、スマイル（笑顔）、「こ」、「腰骨を立てる」、「そ」、「そうじ」、「は」、「はがきを書く」。この五つが、人生を豊かに、丁寧生きる上で基本だと簡単な言葉で教えてくださいました。心していききたいと思います。

今回門脇小学校ではバスを降りて近辺を歩かせていただきました。また、大川小学校では祭壇

考えて、大阪教育大学の二部を受験し、今春から教職免許を取得するために夜間大学へ通うようになりました。

前回の参加により山のように多くの学びと気付きをいただき、人生が大きく転換し始めたことから、今回は僅かなりとも御恩返しをしたいという想いを抱き、半年ぶりに参加させていただきました。しかし、結果的に今回もさらに多くの学びと気付き、そして素晴らしい体験をさせていただきました。「日本を美しくする会」のみなさまと大谷先生へはどれだけ御礼をしても十分なものとなりませんが、その気持ちを少しでも感想文によりお伝えしたいと思います。

まず、今回一番に感激したことは、十数年前から傾倒している森信三先生の御著書を世の中へ送り出された寺田一清先生と御一緒させていただいたことです。八十六歳というご高齢にも関わらず、心配される大谷先生の反対を押し切って参加されたそうです。寺田先生の広く深いお心や慈愛とユーモアに満ちあふれたお人柄に接することで、より一層寺田先生の大ファンとならせていただきました。中でも印象深かったことは、金華山の船着場で先生が無邪気にウミネコへ声をかけながら餌を与えている御姿でした。『インディ・ジョーンズ／最後の聖戦』で父親のヘンリー・ジョーンズ（シヨン・コネリー）が傘で海

鳥を追いかけるシーンを思い出し、とても可笑しくなりました。

二日目に、鮎川浜から船で金華山へ渡りました。そして、黄金山神社の「初巳大祭」というお祭りを復活させるための環境を整えることが今回のミッションでした。お祭りで御神輿を出せるように、御神輿の通り道や公園を清掃しました。地域の人たちは、お祭りで御神輿を出すことよって、被災した人たちを元気づけようと努力されており、私たちの清掃作業は間接的に復興を応援するものとなるそうです。びしょ濡れになりながら重労働させていただくことを予想していたので、作業内容は予想外なものとなりました。しかし、山桜が満開に咲き誇る海と山に囲まれた桃源郷のような絶景の中で、お天気にも恵まれた暖かい陽気に包まれ、参加者の人たちとお話をしながら一日半お掃除をさせていただくことは、この世の極楽と思われるような体験でした。

みなさん、腰を低くしてほうきを使い、さらには地面へ這いつくばって素手で鹿の糞を掻き集めました。大阪産業大学野球部員をはじめとした若手は、その体力を活かして力仕事へ精一杯取り組んでいました。

二日目の夜はグループに分かれて意見交換を行い、体験発表をしました。私は幸運にも寺田先生と同じグループとなりました。また、牡鹿ボラ

ンティアセンターのリーダーである弘光洋祐さん（大学三回生）も同じグループでした。弘光さんが活動している動機や想い「無償で人助けをしている人たちの力になりたい。牡鹿地域と、牡鹿を復興するために努力している現地の人たちを支えたい。人から必要とされるのが喜びです。復興を次の段階へどのように進めていくのかが課題です。」を聴かせていただきました。そして、学校の休みを利用し、自費で活動しているその姿を見ると、真剣に生きていない自分が恥ずかしくなりました。また、寺田先生が「Boys be ambitious! Old be ambitious! 年寄りだと言つて甘えるな。若者の後ろからついて行き、みなさんから学びたい。」とおっしゃっていた言葉にも元気をいただきました。ぬるい気持ちで毎日生活していますが、少しでも情熱の温度を上げるように努力したいと思いました。

グループ意見交換会の後で、寺田先生から講話をいただきました。分かり易く、聴き易い上にとっても含蓄のあるお話をしていただき、明日からは「立腰（腰骨を立てる）」を心がけたいと思いました。

金華山での活動を終えて、三日目の午後に牡鹿鮎川浜仮設商店会・おしかのれん街で食事をして

始めてから考え方がまったく変わった。結果を求めなくなった。十年間努力して結果の出ないこと、それでも努力し続ける姿が美しい。他者と比較するから、気持ちがブレてしまう。しかし、無心となり結果への執着がすっかり消え去ったとき、知らない間に結果が出ている。」とおっしゃいました。私は、強い衝撃を受けました。それは、「結果に執着しないことの大切さ」を頭で分かっているつもりでしたが、身体では理解できてなかったからです。実践を通じて深く理解されている大谷先生のお言葉は、私の魂を激しく揺さぶるものでありました。私は、会社で鍵山先生のお考えに共鳴する方と一緒に、四S活動(整理・整頓・清掃・清潔)を活発にすることで労働災害を撲滅しよう

と取り組んでいました。しかし、先週の日曜日(四月二十二日)にその方が心筋梗塞で急逝されました。五十五歳という若さでした。私は、数少ない理解者が亡くなられて、途方に暮れていました。それは、結果に執着する気持ちが原因だと気付かせていただきました。最近トイレ掃除へ参加出来てなかったため、身体を使ったトイレ掃除の実践に没頭することで、本当に大切なことを叩き込みたいと思えました(西宮の久井様、京都の坂本様・岩崎様、よろしくお願ひ致します)。これは、今回参加させていただいた中で、一番大きな気持ちとなりました。今回「一緒に浅井先生も」最

後はトイレ掃除です。理屈ではなく実践を通じた学びこそ本当に大切なものです。」とおっしゃっていました。

最後に、大川小学校を訪問させていただきました。大川小学校を訪問するのは二回目でしたが、一面の荒野の中にポツンと残された大川小学校の校舎の一部を見ると前回と同様に、震災の日の出来事が頭の中にイメージされました。亡くなった人たちのこと、残された遺族の人たちのことを想いながら御線香をたむけ御冥福をお祈りさせていただきました。私は昨年の震災以来、毎日「家族が今日も一日元気で病気やケガをすることなく、健康で安全に過ごせてありがとうございます」と感謝するようになっていました。しかし、それも形式的なものになっていくのではないかと、もう一度思いを改めました。

そして、道の駅では一緒に活動した人たちとお湯につきり、夕食をともにしながら、お互いの身の上を話し合い、さらに親睦を深めることができました。帰りのバスの中では、今回の活動を通して感じたことをそれぞれに発表しました。学生さんや若い先生方の素晴らしいお話(尊敬する父親を超えたい、腰を低くしてほうきを使う大人は素直にかつこ良く見えたので見習いたい等々)を聴き、日本の将来に対して強い希望を感じました。

四日間御一緒していただいた全ての人たちに

お礼を申し上げます。どうもありがとうございます。

★★兵庫県40代 男性★★

今回で二回目の参加をさせていただきました。尼崎からの出発の際に宮崎先生や大木先生、八尾さんはじめ多数の方が見送りに来られていたことに感激しました。また差し入れをいただいたり、登龍館の田中社長やトライアスロンの方から寄付をいただいた話を聞き、日本を美しくする会をはじめ、たくさんの方から支援をうけながら自分が参加させて頂いていることを改めて感じました。

バスが復興地に入り、まず感じたことは前回(八月)に来たときよりも更地が整備されていることでした。しかし、その様子から少なくとも物理的には復興が進んでいるようには感じられませんでした。これからやらなければ成らないことがたくさん残されているように感じました。門脇小学校の付近で下車して周辺の空気を感じることでできました。更地の中に残された校舎は、窓枠もなく車がささったという焼け跡が残り、異様な威圧感がありました。その重たい空気の中、災害の悲惨さを感じました。そんな中でも所々に植えられている花をみるとホッと出来たのも確

かです。誰かが重たい空気を和ませようとして花を植えてくれたのだと思うと気持ちの上での復興は進んでいるのだなあと感じました。

金華山は、山肌が崩れたり燈籠が倒れていたり見るからに被災の爪痕が残っていました。二日目に前回活動した場所もみせて頂きました。土嚢を積み上げるなど、かなり大変な作業だったと想像できました。作業の様子を聞くまでそういったこともわかりませんでした。そんな中で今回は、天候に恵まれた上にきれいな海に囲まれ満開の桜の下での活動することができました。野生の鹿の糞や枯れ落ちた枝を掃除する活動でしたが、とてもさわやかな気持ちで取り組めました。参加した方々の積極的に動く様子が自分自身の原動力となっていました。年齢によらず積極的に活動している人たちから自分が影響を受けていることをひしひしと感じました。この集団から「学ばせてもらっている」と心底から感じました。それは早朝にトイレ掃除や周辺の掃除をされている様子からも伺えました。みなさんは、とても丁寧で利他の心を実践されていると感じました。それも日常的に当たり前のこととして実践されており、その様子から自分自身がとても大きな事を学ぶことが出来ました。

それは鹿山公園での掃除でも気がつけば「丁寧さ」に欠けた単なる作業に陥っていたからです。

「効率を重視すれば、丁寧さに欠ける」と掃除の最中に誰かが言われていました。それを耳にしたときハッとしました。今まで何かをするとき常に効率的に樂をすることを考えながらやっていたのではないかと自分の物事に取り組む姿勢が思い浮かびました。「掃除と思うな人生と思え」とバスの中でも言われていましたが、まだまだ自分自身の取り組みの甘さを感じました。

牡鹿ボランティアセンターの横の商店街で昼食をとりました。みなさんとても親近感があり、歓迎してくれている様子でした。それもこれまで活動されていた方が連絡を取り合ったりしながら、大切に交流を深めてくれていたおかげでした。鯨の工芸品を作られている方などの話を聞くことができ、復興しようというパワーを感じる事ができました。

最後に大川小学校を訪れました。到着前に大谷先生から未だ見つかっていない人が居る話など聞き、現地の人の思いを知ることが出来ました。そういえば河原にはたくさんさんの重機あったことを指摘されて初めて気がつきました。観光バスを横付けすることに何となく負い目を感じながら下車し、拝ましていただきました。今回は周辺を少し歩くことが出来ました。学校の裏手で植木鉢の破片を見つけました。どこから流れてきたものかもしれません。震災前に小学生が学校で何

か栽培していた様子を想像していました。無念としか考えようがありませんでした。今生きている自分に何が出来るのか、教師として、人間として、たくさんのことを考える機会になりました。今回参加させていただき、とても多くのことを学ばせていただきました。こんな機会を頂いて、本当にありがとうございます。

★★大阪府40代 男性★★
大谷先生をはじめ、この復興地に学ぶ会にご尽力いただいたすべての方に感謝しております。ありがとうございます。

私は、復興地に学ぶ会に、前回に続けて参加させていただきました。前回では、多くのことに気づかせていただき、参加者の方々からよりよい方向に影響を与えていただきました。学ぶ会は、私にとって、自分の人間成長の大きな場になると感じ、ずっと続けて参加させていただきたいと思っております。参加申し込みをした直後に、こんな私にも、職場の方々が歓送迎会を開いてくださることになり、歓送迎会を辞退させていただくか、「学びの会」を辞退させていただくか悩みました。でも、多くの参加者の皆様が、同じような状況の中で、時間や状況をやりくりされて参加されましたので、学びを続けたいと考えている私は、

学びの会に参加させて頂くことにしました。

参加者の皆様がおっしゃいます。私たちはボランティアに行くのではないのです。多くの方に支えられて現地でできることをさせて頂いたのです。それを「ボランティアに行ってきたよ」なんて偉そうに言うのは「おめでたい」ことだとおっしゃいます。でしゃばっただけのボランティアなら要らない。私もこのことには、いつも共感しています。復興地で、今、生きている方たちのご縁を通して、また、同じバスの中で行く参加者の皆様の後ろ姿を拝見して「生き方について学んでいく」まさに「復興地に学ぶ会」という名にふさわしい、素晴らしい会でした。

金華山での活動は、申し訳ないくらい美しい景色のなかでさせて頂きました。晴れた空、満開の桜、キラキラと輝く静かな海。こんな絶好の時期に、今度お迎えるお神輿とお客様のために、鹿の庭をきれいにさせていただきたいと神主様がおっしゃっていただきました。到着した当日、ずっと鹿の糞をそうじさせて頂きました。翌日、前回と同様に早起きしたつもりで起きてみると、もうすでにトイレそうじをしている方がいらっしやいます。境内を歩いていると、掃き掃除をしている方がいらっしやいます。私もほうきを持ち、そうじさせて頂きました。

春です。桜が満開でした。私を感じたことは、

季節は必ず巡ってくるということです。冬があつても春が必ずやってくる。ということです。石巻復興のシンボルの商店街でかわいいワンちゃんをだかれていたご婦人と少しだけお話をさせて頂きました。現在も仮設住宅で生活されているそうです。冬は寒かったとおっしゃっていました。その方は、甥の方に連れられて、春の山菜採りに行く嬉しそうにお話しされていました。ワラビ、ゼンマイ、ウドノメが採れたらいいなあとおっしゃっていました。心の中には、きっと言えないこともおありだと思います。でも春は、人を外へ連れ出してくれます。大地が芽吹くように、人の心にもきつと新たな復興の芽吹きがあると思います。そして季節の巡りが、いつしか人をいやし、復興へと導いてくれる、そう信じたいと思います。前回は訪問させて頂いた、大川小学校へも一度、連れて行っていただきました。参加者は誰も何も持たず、口も開かず、ただ己が心と向き合っておられます。鯉のぼりが春の風にはためいていました。犠牲になった子どもたちのお父さん、お母さんが揚げられているのでしょうか。いったいどんな「思い」を秘めながら、揚げられたのか。胸が衝かれる思いがします。思い出すたび、涙ぐんでしまいます。

家へ帰り、いろいろなことを思い出し、自らの発言や行動をふりかえり、反省することもたくさん

ありました。でも、それそのものが、今回、気づかせていただいた、自らの収穫だと思います。今回も、このような、現地で時を過ごす貴重な時間をいただきました。何より、皆様のおかげだと感謝しております。ありがとうございます。

★★兵庫県40代 男性★★

今回は、寺田一清先生と一緒出来ましたことが何よりも尊い経験となりました。八十六歳ではありますが、登り坂でも先頭で歩かれるお姿や、自ら率先してお掃除をされるお姿を拝見するだけで、想いの強さを感じました。また、掃除に学ぶ会の大先輩方からの一挙手一投足が若手だけでなく、私たちにも気づきを頂きました。

金華山での活動は、お祭りの環境づくりでした。復興のシンボルとしてのお神輿を牡鹿半島の各浜の代表者が担がれることです。その方々は家族を亡くされた方、家や船を流された方もおられ、様々な想いを背負ってお神輿を担がれるとお話を伺いました。今までの瓦礫撤去作業のような直接的な復旧作業ではありません。また、絶景の場所での活動に一瞬、どこにいるのか忘れるほどでありました。しかしながら、金華山が復活すること、心の復興や経済の復興など大きな意味があることをかみしめながらより丁寧にお掃除

をさせて頂きました。

「正しい命の使い方考えたい」帰りのバスの中で、大学生の一人が言った言葉が心に残りました。「生き方」Ⅱ「日常生活」だと考えた時に、「命の使い方」Ⅱ「日常生活」ではないかと存じます。自分のことだけでなく、人のお役に立つような日常生活をおくる。そして、より丁寧な日常生活をおくることこそが、正しい命の使い方ではないかと学びました。ありがとうございます。

★★奈良県30代 女性★★

今回も学ぶ会に参加させていただけたこと、このような企画を継続して続けて下さっている大谷先生、支え続けて下さっている日本を美しくする会の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。そして、改めて人の繋がりの中で支えられているのだと感じました。石巻で再会できた方々からも大きなパワーを頂きました。そんな繋がりが今の自分を支えてくれているのだと感じています。以前に参加した研修会で、自ら命を絶つことになってしまった人は決して苦しいからではないのだと聴きました。苦しくても、分かってくれる人がいたり、そばに誰かがいてくれたなら命は続くのだと。随分前に出会った保護者の方も「もう、だれも…そう思って…」とおっしゃっていました。状況や苦

しみは改善されていたにもかかわらず人との繋がりが切れたと感じたとき人はこれからを考えなくなるそうです。だからこそ、こうやって引き続き繋がる機会を作ってくださいていることに感謝でいっぱいです。なにもできない自分ですが、再会した方がこんなに喜んでくださるなんてとても驚きました。そしてそこからまた、私自身もパワーを頂いているんだとても感謝しました。

今回は前回に続き同じ場所での活動でした。三月の姿と変わっている金華山にんだか心が躍りました。谷川小学校での活動を雪の為中断したとき、「音楽室だけでしょう。丁寧にするので、そこを見た方がきつと続いてくださる。」その言葉に大きな期待と丁寧という気持ちが湧きあがってきたことを思い出しました。金華山の活動も、私たちが来る前の方々の活動を受け継ぎ、それを継いだ私たちに繋がって下さる次の方がいらつしやり、また自分達がその後を受けられることに今回はとても感謝しました。前回途中だった所が終了していたことの感動も大きかったです。だからでしょうか、ひたすら鹿さんの糞をかき集めながら、心地よい爽やかな気持ちのまま活動を続けられました。前回、川のお掃除をさせてもらいながら「ここまで手がまわらなかった」という言葉を聴いた時、その分丁寧に、丁寧にした

いと思いました。今回も同じ気持ちでした。周囲の方々の背中を見てその気持ちはさらに膨らみました。今回も本当に素晴らしい方々と一緒に過ごせて頂いたことに感謝しながらの活動でした。

ミーティングでは、参加したきつかけを考え、第一回のこの会に参加させて頂いた七月のことを思い出しました。どうにかして何かしたいけれど車を長距離運転できない私は何もできないまままでいて、そんなときこの会のお話をいただいたのでした。バスを運転して下さる方にどれほど感謝したかわかりません。参加者全員がそれぞれにいろんな思いをもって参加していることを知り、胸がいっぱいになりました。ここに参加できなかった方々も同じだろうなあと思いました。

二日目の朝、出遅れたのにもかかわらずトイレのお掃除の仲間に入れていただきました。方法も分からず少ししかできませんでしたが、これがこの会を支えてくださった方々が大事にされていることなのだと感じました。七月の会で雄勝町の方々が、テントを立てて日陰を作ってくださいたり、仮設トイレを置いてくださっていたり、何年も引いていなかった山の水をひいてくださっていたのは、先に行かれていた日本を美しくする会のみなさまがただひたすらお掃除をされていた姿からでした。到着した時、産大の学生を見た雄勝町の方々が、すぐ電話をかけ、「飲み物、足り

ないと思うからもうちょっと持つて来て。」とおっしゃっていただくことに驚きました。蛇口をひねれば水が出て、スイッチを押せば電気がつき、消灯もない所から来ている私たちの為に本当にあったけのおもてなしをしていただき、感謝しても感謝しきれませんでした。それも全て日本を美しくする会の方々の姿があったからなのです。帰りのバスで石原くんが言っていた「背中で見せてくれる大人」、まさしくそんな背中だったのだと思います。綺麗な言葉ではなく、姿や行動が人の心を変えていき、支えていくのだと感じました。そして自分の心の弱さも改めて感じました。回を重ねるごとに行動を変えていかれる方々の中、私はどうも、もう一歩進めずにいます。

寺田先生のおっしゃられた「あ・す・こ・そ・は」を心がけ「日常の生活に落とし込む」ことをしていきたいと思えました。そして、「ホンマの正しい命のつかい方」を私もさぐっていきたい、そう強く思いました。

今回参加された方々の背中や言葉に感謝です。そしてそれ以上にこの会を支えて下さる方々や思いを同じくしておられる方々に感謝します。本当にありがとうございます。

★★大阪府30代 女性★★

『第十一回復興地に学ぶ会』という、よりステキな名前でバスを出していただいた『日本を美しくする会』のみなさまに感謝の気持ちでいっぱい입니다。私は、そこで、実践を積み背中で語られる、かっこいい先輩方、素直にたくさんの方々のことを吸収して、それを快くシェアしてくださる仲間の方々にお会いすることができました。ありがとうございます。

今回、一番嬉しかったことは、石巻の桜を見れたことです。先月、大産大で、浅野さんが「栄養を蓄えるための葉が早くに散ってしまっていた。昨年は咲いたが、今年はどうか。」とおっしゃっていたからです。だから、石巻市内に入って、見事に咲いた桜を見た時、とてもとても嬉しかったです。さらに、金華山の桜は想像していたものとは比べ物にならないくらい、すばらしいものでした。空に向かっておもしろい広がりを持った枝と、満開の花びらと、緑の若葉は、すごく力強く、晴天の空と青い海がバックに見えて、心が晴れ晴れする最高に気持ちの良い風景を見ることができました。

今回、心に響いたことばが三つあります。一つは、いただいた『真志正望』の一番始めに載っていた「人生二度なし」です。前回、「何もしない失敗ほど大きな失敗はないということを知り、一歩を踏み出す勇気をいただきましたが、今回も行

動を起こせる言葉に出逢えました。しかし、それでも、あと一歩が出なかつた時、チームの方が「ぼくもそうしたかった。」と言って、行動をとともにしてくださいました。心を寄せて、わりなく背中を押せるその方のように私もなりたいたいと思いを思いました。

「自分が困った時こそそころの中で『よっしゃ!』と言おう」と聞いて、笑いながらもしてみました。なんだか、それまで重たく考えていたことがやってみたらおもしろいかもしれない。と、前向きに物事に取り組めるような気がしてきました。気のやさしい誰かががんばってくれているのを、心苦しく見つめるよりも、自分が失敗する方が気が楽だなとも気づきました。

帰りのバスで、学生さんが『正しい命の使い方』を考えて、命を本当に大切にできる生き方をしたい』とおっしゃいました。家族に、当たり前の毎日の生活に感謝：感じていても、どれほど伝えてきたかなと感じました。帰ってきてから、両親と「ALWAYS」のDVDを見て、いつもとは違う会話ができました。一人で考えていた臓器提供の話をしました。自分の命を一生懸命生きて、たくさんの人と色々な思いを感じ合ひ、いっぴい心を動かして過ごしていきたいと思ひます。

今回、初めて、バスから降りて門脇小学校のすぐそばへ行くことができました。先月銭湯で渡波

地区に住んでいらっしやったお母さんから聴いたお話（住んでいたおうちの二階部分が切り離されて、津波が来るたびに、製紙工場から病院までの距離を床にしがみついたまま流され、往復したこと。四回目の波で門脇小学校横の山に流れ着いた時に、脱出して助かったこと。）を思い出しながら、周りを見て一歩ずつ行きました。製紙工場、病院、門脇小学校は実際に見るとだいぶ離れていました。自分が今歩いている地面のはるか上まで海の水で満たされていて、その上を何十件、何百件もの家屋が流されていた景色を、とても想像できませんでした。

Cocoストアというコンビニでは、駐車場に青いペンキでかかれています。出口や出産の文字を見るたびに、初めて石巻にボランティアで来た時のコーディネーターさんの話を思い出します。いつもお世話になっている牡鹿のれん街の大将さんに、先月初めて伺った、Cocoストアへ避難した時のお話も頭に浮かびました。そこで働いているおばさまには、津波が押し寄せる前に、牡鹿半島と金華山までの海の水がすべてひいて海底が見えたお話を教えていただきました。朝ごはんを買うほんの短い滞在時間に、これだけは！と思って話してくださいました。ありがとうございます。私のお話わかる？」としきりに聞かれながらもたたくさん話してください、帰りも寄ってね。

と、笑顔で送り出してくださいました。浅野さんがおっしゃった「今、一番必要なものは思いや心です」という言葉が思い浮かびました。

金華山では、最高の景色の中で、仲間の方々と、仕事や家族、部活、学校など、日常のお話をたくさんしました。年齢もすんでいる場所も全然違うみなさんといういろいろなお話をできるように頑張ったことがとてもうれしく感じました。プロカメラマンの方が、三脚を使って全員写真に参加してくださったこと、星と夜桜の写真を撮りながら、イキイキとお話してくださいました。とてもうれしかったです。翌日、先月活動した貯水槽を見に行きました。その時の作業や弟の様子を何人もの方が教えてくださいました。携った場所を再度訪れることができること、チームで来れること、仲間の方の温かさにふれられることに、本当に感謝します。人生初めてのトイレ掃除も経験できました。一番に磨いたのは、便器ではなく、床でした。女性リーダーさんは、「自分で見て、一番汚れているところを一番始めにすること」を教えてください、絶対にご褒美があるのよ。」と、手作りの美味しなおかずをたくさんくださいました。

津波の壁に突っ込んでいき、助かった奇跡の船で海上タクシーを続けているお兄さんは、箱買いしているかっぱえびせんを出してくれました。私

たちがその餌をかもめにあげて大騒ぎしているのを、にこにこして聞いておられました。

牡鹿のれん街では、お店の方が笑顔で迎えてくださいました。大将のお店では、注文以上のメニューを「おいしいから食べてみ。」と出してください、「ご飯が切れてしまつてごめんね。」と、自分の昼ごはん用のサンドイッチをだしてくださいました。仲間の方から届いたはがきを「表も裏も見せたいし、魚の汁がとんだらいやだし、どう飾ろうか迷つてる。」と話してくださいました。いつも買い物する雑貨屋さんでは、毎回違う粗品をお返しにいただきます。そのお姉さんに、「この子、お得意様なのよ。」と言っていたいたこともとても嬉しかったです。お店に飾っておられたお花は千葉のボランティアの方がくれたもの、大川小学校の方々が京都へ招待されていらしたお話も聞いて、心が温かくなりました。

帰りのSAでは、いつも私たちを運んでくださる運転手さんに、絶対に事故がないようにいつも最新型のバスを出していただいていることを伺い、プロのすごさを感じました。

今回、初めていらっしやった方々は、バスを降りる前の大谷先生のお話や、牡鹿ボランティアセンターや金華山で見せていただいたDVDから、津波の被害を目の当たりにしたり、活動してこられた方々の思いを知ることができたとおっしゃ

っていました。

わたしは、今まで、「被災地に学ぶ会」のバスに六回乗せていただいています。現地の方から、一緒に活動した仲間の方から、たくさんのお話を聴かせていただきました。新しく知る方に、どのお話をどのように話したら、少しでも自分の学びを伝えられるのだろうか。と、初めてくやしいというか、もどかしい気持ちになりました。

浅野さんは、講演やお話をされる時に、相手を見て、内容や話し方を変えるようにしているとおっしゃっていました。たくさん、本当に、たくさん光景を見て、思いを知っている浅野さんが、一回の講演で話せることは、その十分の一もないと思います。それをしぼって、そこにいらつしやる方々の心に届くように、お話しされていること、すごさを感じました。私も、誰かに伝えることや、いただいた学びを生かすことを考えていきたいと思いました。

「日本を美しくする会」のみなさん、現地で温かく迎えてくださるみなさん、「復興地に学ぶ会」の仲間みなさん、たくさんの方に響く学びがありがとうございます。自分のすぐ近くでささえてくれている家族や友達に感謝して、命を大切に生きたいと思います。

★★兵庫県30代 女性★★

以前より東北へ行きたいという思いはありましたが。しかし、自分一人ではなかなか行動に移せないでいました。そのような時に、三月に大阪で行われた報告会へ参加しました。「知覚動考（ともかくうごこう）」という言葉に出会い、すぐに四月の活動への参加を申し込みました。バスや船宿泊や食事のことなど、何も心配する必要もない万全の態勢の中、熱い思いを持った方々と共に活動できたことを、心から感謝しています。

何よりも心に残っていることは、石巻の二つの小学校の光景です。テレビなどの映像で見ているので、その状況はわかっているつもりではいきました。しかし、実際に目の当たりにすると、言葉ではとても表せないものでした。昨日までは普通に学校生活を送っていたのに、一瞬にして建物もろろん、多くの命や思い出を失ってしまった方々。その無念さや悲しみは、その方々にしかわからないものだと思います。それを思うと今の私にできることは、ご冥福をお祈りすること、被災された方々へ思いを寄せること、毎日を丁寧に過ごすこと、周りにいる人たちを大切にすることだと、改めて思いました。

今回の活動は、公園の掃除でした。ひたすらシカのフンなどを片付けました。ずっと掃除をしていると、次第に手でシカのフンを片付けるように

もなりました。さらに不思議なことに、シカのフンに愛着のようなものさえ感じました。また、京都の坂本さん、岩崎さんにお声をかけて頂いて、早朝にトイレ掃除をすることもできました。最初、素手ですると聞いたときは「無理じゃないか」と思いました。しかし、当たり前のこととして素手で掃除されている坂本さん、岩崎さんの姿を見て、私も行うことができました。清掃後は、たいへん清々しい気持ちになりました。実際にやってみないとわからないことだと思いました。シカのフンでもトイレ掃除でも汚いと思う気持ちが少なからずありました。汚いと思うことが「当たり前」になっただけでしたが、それが最後には汚いと思わない自分になっていました。何が「当たり前」なのかは、自分が決めているのだと思いました。より良い「当たり前」を目指したい、「当たり前」のレベルを上げたいと感じました。

三日目、昼食のために寄らせていただいた仮設商店街では、お店の方々に温かく歓迎して頂きました。駅の道では浅野さんのお話を伺うこともできました。これも、今まで継続して活動されてきて、交流を深めてこられた方々のおかげだと思います。人とのつながりの有難さ、温かさに感謝の気持ちでいっぱいです。

今回、参加し学んだことや感じた思いを、毎日の生活に必ず活かしたいです。貴重な経験をさせ

て頂き、どうもありがとうございました。

★★福岡県30代 女性★★

今回、第十一回復興地に学ぶ会に参加させて頂き、本当に感謝しています。何もかもが初体験な事ばかりで、いろいろな学びをさせて頂きました。三日間一緒に過ごす中で、みなさんそれぞれに石巻市を復興するぞ!という熱い思いあり、みなさんから伝わってきて、何か自分にも出来ることはないかと頭の中でいろんな思いが渦巻いていました。

帰ってからも、あの時、体験した時の気持ちが続いていて、周りの方達へも状況を伝えたりしています。自分にも、何か少しでも復興に力を入れて行きたいという気持ちがあり、復興に繋がるよう意識しながら、日々過ごしています。それは、やはりみなさんの思いが続いているからなんだと実感しています。

金華山での清掃や、トイレ掃除、商店街でのみなさんとの触れ合い、短い時間でしたが、自分にとって、一生忘れられない、三日間となりました。いろいろな方の助けを受けながらの活動でしたので、次は、みんなに迷惑をかけないように、復興地に学ぶ会に参加したいと思っています。次、また会える日まで、みなさん、怪我のないよう気

をつけて活動してください。大谷先生を始め、皆様には心より感謝しております。ありがとうございました。

★★大阪府30代 男性★★

まずはじめに、今回も復興地まで行かせて頂きました日本を美しくする会の方々や多くの方に感謝の想いでいっぱいです。ありがとうございました。

今回も夜の学び合う場で前に立たせて頂きました。中間体験発表を小グループになり進めて行き発表しました。学生、教師、掃除の会のみなさんなど、幅広いメンバーでの話し合いでたくさんの学びが自分としても多くありました。それに加えて、前に出て発表されるグループの方からの学びも多くありました。みなさんのご協力のおかげで無事におわれましたこと感謝しています。キラキラ輝く眼差しで話しておられる姿を拝見させてもらい心が温かくなりました。

寺田一清先生の最後講話して頂いたなかに「あ・す・こ・そ・は」という言葉の中に今の自分と照らし合わせることができました。「あ・す・こ・そ・は」を実践していける人になれるようには普段の生活が大切だということを今回も気づかせて頂きました。実践して始めてわかることで

あるので、これだけ参加させてもらいながらもまだまだ普段の生活にながれていない自分ではあります。しかしながら、今回の学びで少しずついいので変えていくことをしたいです。何も取り組まない人の普段の生活は十年後もやはり変わっていない、と教えて頂きスイッチがようやく入りました。まずは、朝早起きして掃除することから始めたいです。それは、今回も朝起きて掃除をしようとした時、すでに掃除に取りかかっている方々が多くおられました。驚きと、自分の甘さを実感させて頂きました。普段の生活でされているように、もくもくと当たり前のように作業されています。その背中からにじみ出てくる姿勢から学びを頂きました。

おしかのれんがいでのお出来事。鯨歯工芸店の千々松さんとの約束の再会がありました。先月行かせていただいた時に「次も必ず訪れさせてもらいます。」とお別れをしました。「帰ってきましたよ!」と、お会いしに行き商品も購入させて頂きました。それで終わるのではなく、「時間あるならコーヒーのむかい?」と言ってもらい話を聴かせて頂きました。その話の中に五月九日から大阪の心斎橋大丸で工芸家展としてお店を出しにこられるとありました。その期間中に「大阪わかないから、食事でも行きませんか?」と誘っていただきました。二つ返事でこたえさせていた

き、心から幸せな気持ちになりました。このよう
なつながりを頂けたのも「復興地に学ぶ会」や支
えてくださる「日本を美しくする会」のみなさん
をはじめとする多くの方のおかげです。このつな
がり、ご縁を大切にしていきたいです。

今回の作業で大切にしたいこととして、第一回
から言われています「丁寧」でした。自分の中
では、両手を使うことにこだわりました。「やっ
てるつもりがやらせてもらっている。」気づきを
頂きました。自分はしているつもりでしたが、周
りを見てみると自分より年配の方が丁寧に掃除
されている姿を拝見させていただきました。すご
い一言で、まだまだ自分ではできないのに「膝いた
い、腰痛い」と、できない理由を考えていました。
その気持ちもなかなか続かない自分でしたが、大
谷育弘先生から「諸先輩方から箒の持ち方であつ
たり、姿勢であつたりを学ぶんです。」と、声か
け頂き気づかせてもらって自分でした。普段の生活
に落とし込んでいく作業をしていくことが課題
です。普段からしていることが、こうした場で態
度・姿勢としてでるんだとも学ばせて頂きました。
道の駅に浅野仁美さんと娘さんが来てくださ
いました。毎回時間を合わせきていただく姿から
学びを頂いてばかりです。被災した被災していな
いではなく、人と人がつながり合う素晴らしさが
あります。心をよせるのは簡単なようで難しい、

普段からの生活がここでもでてくるんだなと気
づかせて頂きました。

このようにつながり合う関係を築いていくの
は、丁寧に取り組み続けることが大切です。私一
人では微力かもしれませんが、できること・させ
て頂けることを継続して取り組みたいと想って
います。ありがとうございます。これからもよろ
しくお願いします。

★★大阪府20代 男性★★

日本を美しくする会の皆様、いつもありがとうございます
ございます。そして第十一回復興地に学ぶ会に参
加された皆様、皆様からたくさんの学びを頂きま
した。ありがとうございます。今回は金華山にて
一泊させて頂き、四日間という期間でしたが、そ
れ以上に皆様と一緒にいさせて頂いたような気
持がしています。

夜、意見を聞かせて頂いたグループミーティン
グ。みなさんの感じられたことをそばで聞かせて
頂いて、学ばせて頂きました。

福岡県の先生が生徒のために作られたDVD
も見せて頂きました。震災当時の映像もあり、自
衛隊の方やレスキュー隊の方が活動されている
場面では、【今やらないでいつやるんだ】という
覚悟がありました。本気の姿がありました。「こ

の一年で何ができた？」という生徒へのメッセー
ジは、自分の胸にズシンと来ました。震災当時の
映像を見て、震災があつた3月のことを思い返し
ました。今、あの時のような気持ちがあるのか。
この一年、あの日のあの時のような気持ちで過ご
して来たか。そう思うと、やはり、DVDに出て
きた自衛隊の方の本気さには程遠い甘い自分が
いることに気づきました。

寺田先生から頂いた本を開けると、この言葉が
ありました。【人生二度なし】まさにこの言葉に
尽きるということです。甘いまま過ごしても、こ
こでさらに前に一歩踏み出しても、人生は二度は
ない。

この一年。石巻へ行かせて頂き、多くの方に出
会い学ばせて頂きました。【人生二度なし】この
言葉を胸に置いて、これから日々過ごしていきたく
いと思います。そうすれば、この一年の意味をも
っともつと深いものにできるのではないか。大き
な大きな転機にできるのではないか。そう思いま
す。

今回ご一緒させて頂いた先輩方の作業に取り
組まれる姿勢。丁寧に丁寧にされる姿はお手本で
す。身を低くして作業される寺田先生、朝いち早
く掃除されていた浅井先生。普段からこのように
丁寧に生きておられるのです。場所が変わったと
ころで、根本はなにも変わらない。表面だけの自

分とは全く違います。ただの作業ではなく、生き方を学ばせて頂きました。ありがとうございます。

大川小学校へ寄せていただきました。バスが近づくと、心の中で怖いという感情が湧いてきました。バスを降り、目を閉じ手をあわせました。そうすると子どもたちの声が聞こえたような気がしました。「もつと生きたかったよ」「もつと大人になりましたよ」そんな声が聞こえました。涙が止まりませんでした。こんなに生きたいと思っていた子どもたちがいるのに、今の自分は何をするにも中途半端で、一体何をしているんだ。もつともつと本気で生きないと。と思いました。自分はどこかで甘いとか、中途半端とか、そういう部分があります。頭で考えて、結局しないということもあります。弱いのです。しかし、自分の命を燃やして普段から過ごしておられる皆様のそばで活動させて頂いて、その姿が本当に輝いて見え、『いつか自分も』と心に決めました。【人生二度なし】自分にプレッシャーを与えてしまつては、本来の意味と違ってしまうので、純粹にこの言葉の意味を噛み締めて、一步を踏み出して行きたいと思います。

最後になりましたが、驚くべきほど時間きつちに、そして安全に私たちを運んでくださった運転手のお二人に心から感謝いたします。みなさま、ありがとうございます。

★★京都府20代 大学院生★

昨春写真や映像を見てあれほど「忘れずにいよう」と決心したはずの東北への思いが関西にいるうちに少しずつ「口だけ」に近づきつつあるのをどうすることもできなく感じていた頃、大谷先生が講演で「東北と関西では温度差がある。関西では『がんばろう』と掛け声さえかけていればいつの間にか誰かが復興をなしとげてくれる気がする」と仰つたのを聞き、参加させていたきたいと思えました。

東北へ着き最初に門脇小学校へ寄らせていただきました。小学校の周囲の家は崩れてしまっていました。崩れた住居の跡を見ると女性用の靴が見つかりました。この靴ももしかするととても大切な思い出がこもったものかもしれないと思うと私の実家が思い浮かびました。家族で暮らす部屋、思い出の写真、こうしたものがある日突然失われて「昔はここに自分の家があった」と過去のこととしてしか語れなくなるのだと思うと心が痛くなりました。

牡鹿半島から海上タクシー三台で海を渡り金華山へと向かいました。途中運転手さんがかっぱえびせんを下さつてもめに向かつて投げるとかもめがたくさん船の後をついてきました。金華

山に着くと神社鳥居前の石碑が倒れ木々も倒れたものもあり災害の大きさを実感しました。

私達が活動を行ったのは金華山神社の前の公園でした。五月連休明けの初巳大祭に向けて公園内の落ち葉や石、鹿の糞などを集め公園をきれいにするという活動内容でした。作業自体は普通の清掃活動のようでしたが、津波で運ばれてきたであろう空調設備の一部にガラスや焼き物の破片、貝などもあり、さらに落ちている木の枝や皮の量が尋常でないことから実際にここで地震が起つたのだと思ひ起しました。

休憩時に芝生に座って目の前の海を見ると雲ひとつない青空の下に静かな美しい海が見え、また桜が満開でした。カメラマンの渡邊さんに木の幹が縦に半分には裂けているにも関わらず満開の花を咲かせている桜の木を見せていただき、自然の再生する力の偉大さを感じました。また渡邊さんは先に行った門脇小学校に咲いたチューリップもカメラに収めておられました。被害の大きさに心を痛めるのは勿論、それだけで終わらずその中にある美しいものも見落とさず受け止めて周りに伝えてくれる姿に心の大きさを感じました。

現地での活動初日の夜には学校の先生が編集された映像を見せていただきました。特に震災直後に東北へ向かった自衛隊の方の「今無理しない

でいつ無理するとうんだ」との言葉は、後で班に分かれて話し合ったとき私も含めて多くの人が感動したと言っていました。今までは自衛隊の方はすごい、真似できない、で終わっていたのですが、話し合いの中で自分たちも同じ仕事をするにしてもプロ意識を持ち、恵まれた環境で生活できていることを忘れず、後ろめたく思いつぎることもなく感謝の気持ちを持った上でやっていくという結論に達しました。

翌朝は六時ごろから掃除をすると聞いていたのですが直前に行くともう既にほとんどの方が揃って神社前を掃き清めておられたので、しまったと思いました。大谷先生をはじめ今回の参加者はこういう方々の集まりなのだと思います、二月の谷川小学校で帰りのバスが到着するまでの最後数十分で教室をきれいにされた関西組の信じられない底力に納得できた気がしました。昨年京都からの参加者が避難所リーダーの浅野さんの「震災後に頑張った人は震災前から頑張っていた人です」という言葉を紹介して下さっていました、復興地に学ぶ会の方々の姿に、普段からの積み重ねの力が結局はものを言うということを実感させられました。

二日間の活動を終え牡鹿の商店街に戻ると入口にお祭りのポスターが貼ってありました。復興へ向けて歩み始めた姿を全国へ届けたいという

内容の文章があり、木や花だけでなく東北全体が「被災地」から「復興地」へと変わろうとしている姿に胸が熱くなりました。さらに商店街の方と親しく話されている小峠先生や、今回は時間に余裕があるからと散髪もされた松浦先生を見て、私がか心の中で「被災者」と「それ以外」という線引きをつい固定してしまっていたことに気づかきれ、これは必ずしも現地の方が望んでおられないのではなからうかと思ひ、今振り返ると申し訳なくなりました。今後来させていただくことが叶えば復興地に学ぶ会の諸先輩方の姿を見て少しでもお話ししたいと思ひました。

最後になりましたが大谷先生はじめ今回一緒に緒させていただいた皆様、交通費等費用を全面的に支援して下さいました日本を美しくする会の皆様、私達が談笑しているときも寝ているときも安全運転でかつ時間に間に合うように長い行程を連れて行って下さり降りの際に笑顔を向けて下さったバスの運転手さん、そして石巻でお世話になった方々に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

★★奈良県20代 男性★★

この度「復興地に学ぶ会」に参加させていただき感謝の気持ちでいっぱいです。自分を「いつて

らっしゃい」と快く送り出してくれる家族や同僚の方々、また日本を美しくする会の皆様をはじめ、私たちの活動に関わって下さっている方々に感謝申し上げます。

大変充実した時間を過ごせた中で、たくさん学び・気づきがありました。それもやはり言葉からよりも、皆様の背中から・行動からまなばせていただきました。石巻市内に入り今までも活気がある風景から一転、私が初めて訪れた時と変わりのない門脇地区の様子を見ると「復興」という言葉に何か考えさせられます。多くの復興の手が入っている地域とそうでない地域との違いがとてつもなく大きく、無念ささえ感じました。それでも門脇小学校の前で力強く咲くチューリップや、道路と道路の間に咲くパンジーなど、自然が私たちに何かを訴えているようにも感じました。

牡鹿半島に水上タクシーで先月と同じ金華山に入りました。満開の桜、金華山から光って見える海、天候にも恵まれ素晴らしい自然の中で活動させていただきました。活動の中で特に寺田先生や久井さんの取り組む姿勢から大きな気づきをいただきました。姿勢の低さやほうき一つの持ち方など大きな学びでした。その夜のグループディスカッションや寺田先生のお話などもまた大きな学びでした。翌朝のトイレ掃除や境内周辺の掃

除、朝から掃除することで自分の心がすごくきれいになっていく気がしました。

活動後少し時間があり、金華山の住職である日野さんや観光ガイドをしている方と会話できる時間がありました。今の現状や、これからの活動についてなどそのまます話してくださいました。大川小学校に立ち寄らせていただきました。初めて小学校周辺を歩き見せていただくと、校舎の鉄筋が曲がっていること、またそれよりも地面がまだたくさん小さなガレキといわれるものといっしょのままでした。

道の駅でのお風呂で現地の方とお話しする機会がありました。気仙沼の方だったのですが、家も会社の工場もすべて無くなったということでした。流されていなければ息子さんが継ぐはずだったというお話や津波発生当時の生々しいお話をしてくださいました。それよりもボランティアで来ている方々への「ありがとう」の感謝を何回もされていました。お父さんとの最後の握手から何か強いものを感じました。

今回の活動の中で一番強く思ったことは「つながり」ということです。仮説商店街の方とのつながりをもっているということが私の一番の誇りです。休みなのに私たちのためにお店を開けていただき、たくさんのごちそうを食べさせてもらい、会話からたくさん元気とパワーをいただきました。

した。素晴らしい笑顔で話されている大将と奥さんの姿から本当に元気をいただきました。出会いといったきっかけによりつながりも持てたことに感謝しています。復興地に行く楽しみと行ってはおかしくなるかもしれませんが、現地に行つて私たちを待つてくださっている方がいることに本当にうれしい気持ちでいっぱいです。これからもつながり続けていきたいと心から思います。

今回学ばせていただいたことをこれからの自分の日常生活に同じように生かしてき、一日一日を精一杯過ごしたいと思えます。ご一緒させていただいた方々、私を支えてくださっている方々、日本を美しくする会の皆様、心より感謝申し上げます。

★★大阪府20代 男子学生★★

今回初めて復興地に学ぶ会に参加させていただきました。僕は小学校の入学前に阪神淡路大震災を経験しました。まだ幼かった僕は、何も出来なかったことを覚えています。震災直後、僕の父親はすぐに家から出て数名の命を助けているのを目の当たりにしました。僕はそれを見ているだけで何も出来ず、食料も支援物資によるものだと知らず食べていました。そして今回、阪神淡路大震災の時にたくさんの方々を助けていただいた

ので、少しでも復興地に何か力になれないかと思いい父親と一緒に参加させていただきました。

今回の参加で一つの大きな「気付き」がありました。

一つ目は、父親の背中の中の偉大さです。実はもう一つ参加した理由があります。僕の父親は昔から仕事ばかりで幼い頃からゆっくりと一緒にいる時間がありませんでした。そんな背中を見て育った僕の背中も、成長した事を見てもらうために参加しました。僕の背中の方が大きく、体力もあるはずですが、活動を通して、いろいろな指示をしている父親の背中を見るとまだまだ越えることが出来ない偉大な背中だと気付きました。今後、父親の背中を越えるという大きな目標が出来ました。

二つ目は、復習(見直し、やり直し)の大切さです。小学校の頃から、学校の先生や両親に、復習をしないと言われ続けて来ましたが、復習をしない自分がいました。しかし今回、金華山の掃除をさせていただき、自分が掃除した場所を見直す時、まだゴミが残っている事がありました。今までの僕だったら、きれいになっているからと見過ごしていたはずですが、今回はしっかりと戻つて、残っているゴミをきれいにすることが、意識をせずに出来ていました。この時、初めて復習の大切さを知りました。今後すべてに関して復習

(見直し、やり直し)をしていかなければならない
ということを学びました。

三つ目は、金華山のリハビリテーションを行った事です。僕は、現在理学療法士になるための専門学校に通っています。理学療法士は、医師の処方のもとリハビリテーション(リハビリ)を行うのですが、その語源がラテン語で「再(再び)+habilis(適した)、すなわち「再び適した状態になること」、「本来あるべき状態への回復」

などの意味があります。今回、金華山の掃除をさせていただく中で、金華山の本来の姿に少しでも近づけるために掃除しているのではないかと感じました。内容は違えど、元の状態に戻すという意味では最終到達(ゴール)は一緒なのではないかと思いました。理学療法士になって、人のリハビリテーションだけでなく環境やすべてに関するリハビリテーションが出来るようになりたいと思いました。

今回、何か一つでも復興地の力になれるように参加させていただいたつもりが、たくさんの「気付き」や「学び」があり、このボランティアは自分を大きく成長させていただきました。石巻で見た光景は衝撃的で、実際に足を運んで見る東北とテレビから見る東北とは全く違うものでした。また、商店街から出発した時、バスが見えなくなるまで手を振り続けてくれた現地の方々や道の駅

で走って道路まで来て手を振り続けてくれた
方々の温かさは、本当に身にしみるものでした。
自分は温かい気持ちを忘れていたように思います。
す。

最後にまだまだ復興は始まったばかりで若者の
の力が必要だと感じました。今後このような機会
があれば積極的に参加して成長させていただき
たいと思います。そして、足を運んで現地を見て
きたものとして、地震・津波の恐ろしさや一年経
過した東日本大震災を忘れてはならないと感じ、
学校に帰ってクラスの仲間や教員に伝えていき
ます。今回、ボランティアを企画していただいた
方々や、日本を美しくする会の方々、バスの運転
手の方々、現地の方々、両親すべてに感謝したい
と思います。すばらしい経験を本当に有り難うご
ざいました。

★★大阪府20代 女子学生★★

前回に引き続き今回も金華山で活動すること
を知り、「前回やり残したことをしたい」「一ヶ
月経ってどう変わっているのか自分の目で確か
めたい」という想いから今回も参加させていた
きました。

新年度に入り、「被災地に学ぶ会」から「復興
地に学ぶ会」へ団体名が変わり、今回は人数も十

名ほど少なくバスの空席もあり、いつもとは少し
違った気分で尼崎を出発しました。そして、恒例
の自己紹介の時間。参加動機や前回の活動の内容、
自分で取り組んでいることなどをお聞きするだ
けで、「来てよかった」と思える程学びがいっぱ
いのこの時間が私は大好きです。また、大谷先生
からの「参加者全員と話しましょう」という課題
を少しでも早く達成するために、みなさんの名前
や職業・年齢・話の内容をノートにメモし、その
場でできるだけ名前を覚えるようにしています。
明け方、福島県の国見インターに着いた時、桜が
きれいに咲いているのを見てとても感動しまし
た。その後も車内からきれいな桜を眺めながら、
門脇小学校へ向かいました。今回は、バスから降
りて近くまで行けるということで、バスを降りて
歩くと、そこには服・アイロン・三輪車・食器な
ど生活の跡が残っていたり、チューリップがきれ
いに咲いていたりといういろいろ考えさせられま
した。

牡鹿に到着し、久々に公民館の中へ入り、初め
て参加した夏にも見た津波のDVDを見させて
いただきました。同じ映像ですが、何度か牡鹿へ
足を運び、周辺を見慣れたせいか以前よりもリア
リティーが溢れ「怖い」という印象を受けました。
金華山へは、「くろしお3号」という船で向かい
ました。キャーキャー言いながら、笑いながら、

船長さんと共にまるでアトラクションを楽しんでいるような船内でした。船長さんから、震災当日の体験談(津波と立ち向かったこと・船が真上に上がって、真下に沈み死を覚悟したことなどを聞かせていただき、また、「この船が僕の命を守ってくれた」「今ある船は奇跡の船である」と誇らしげに話す姿を見て、「もっと、もっと、多くの方にこの船を利用していただきたい」と金華山の復興を強く願うようになりました。

金華山へ到着し、今回は「鹿山公園の掃除」をさせていただくことになりました。「合羽や長靴はいりません」と言われ、一瞬「えっ?」と思いましたが、「重たいものを運ぶだけが重労働ではないこと」「大阪でもできる軽作業だが、今、金華山には、それをする人がいないので公園の掃除も立派な作業であること」を学びました。「青い海」・「満開の桜」・「鹿の糞」といったところでしょうか：素晴らしい景色を見ながら、掃除をし、昼食・夕食をいただき最高の気分でした。夜は、DVD鑑賞やグループワーク、写真のライドショーが行われました。教師や学生・年配の方など五〜六名でグループになり、模造紙にいろいろまとめ、発表しここでもたくさん「学びと気付き」がありました。この取り組みは、初でしたが、交流が深まりとても楽しく好評でした。その後は、ほぼ全員で夜空を見に出かけ、満天の

星を見て再び感動しました。

翌朝、五時過ぎに起きると既にトイレ掃除が行われており、急いで私も手伝わせていただきました。起きて十分でトイレ掃除をしたのは初めてで、多少吐き気と戦いながら掃除をしていると終わるころにはすっかりした気持ちになり「逃げなくてよかった」成長した自分に気付いた瞬間でした。女子全員で朝食を済まし、境内の掃除や各部屋の掃除をし、鹿山公園へ向かいました。この日も鹿の糞を掃き続け、糞が食べ物に見えるほど、素手でも触れるぐらいになり、ひたすら鹿の糞と向き合いました。こんなに鹿の糞を触ることはもうおそらくないでしょう。

二日目は午前中のみでの作業でしたが、早朝からたくさん掃除をしてとてもすがすがしい気持ちでいっぱいでした。自由散策時間のとき、上まで登り先月作業した場所へ行くと、あの時から想像もできないほどのきれいな「道」ができていました。「先月自分たちが入れた土や土嚢袋はこの下の下にあるのかな」と会話しながら、以前は一人しか通らなかつた道を今回は、四〜五人で横に並んで歩くことができ嬉しかったです。

金華山からの帰りは「Sea Dream」という船で牡鹿に戻りました。その船には、「かっぱえびせん」が用意されていて、カモメに餌をあげ楽しんでいるうちにあつという間に到着しま

した。今回は、おしかのれん街で、親子でお店を営んでいるお寿司屋さんに入りお寿司をいただきました。ボリユームがあり、鯨のお寿司をサーブスもしていただきとても美味しかったです。また、どのお店に行ってもお店の方々が「ありがとう」「お疲れ様」と明るく笑顔で話していただき、震災を乗り越え必死に生きられている姿に感謝を受けました。

大川小学校では、今回もただただ校舎を見つめ、手を合やすことしかできない自分にやるせない気持ちでいっぱいになりました。

帰りのバスでは、行きと同様体験発表の時間があり、短い方は一〜二分、長い方だと十五分それぞれ、の想いを熱く語られており、この場で知ること・教えていただくこともたくさんあり、高い志を持った方々と共有できることの幸せを感じました。前回、二時を過ぎた体験発表も今回は、二十四時過ぎには終わり早めの消灯時間になりました。

朝、予定より早く尼崎に到着できたのは、神姫バスの素晴らしいドライバー新西さんと亀田さんのおかげです。同じ頃、バスの死亡事故があったので、少し不安な気持ちで乗車しましたが、顔見知りの新西さんということもあって安心して夜もぐっすり寝ることができました。

初めて、石巻を訪れた七月。被災地に行くのが

少し怖い気持ちと、やっぱり行って見てみたい気持ちで葛藤する中、一人で行く勇氣はなく友達と参加させていただきました。しかし、あれから約十ヶ月が経とうとする今、友達を誘わず一人で参加できるようになり、この六回の「被災地に学ぶ会・復興地に学ぶ会」によって、「ボランティアをするのではなく、させていただく」という気持ちで理解できるようになり、また成長している自分に気付くこともできました。先にも、申し上げましたが、金華山からの景色は、本当に素晴らしく、津波が来たとは思えないほど、何もなかったかのごとく元通りになり、青々と輝いている海を見てみると、「自然の強さやおそろしさ」を改めて感じ、とても悔しくなりました。それを抑えたり、止めたりなどどうすることもできませんが、復興のためなら人間ができることはいくらでもあります。「今自分にできることは何か」を今一度考え、重ねて寺田先生に教えていただいた

「あ・す・こ・そ・は」を実践していただける人になりたいです。

長々と書きましたが、毎回メンバーが異なり、その回ごとの雰囲気も少し異なりますが、私はこのメンバーと学べることでできとても幸せです。尊敬できる人生の先輩・教師・大人の方、刺激をいただける学生がたくさんいます。今回も、高い志を持たれている皆様方と一緒に、活動する

中で多くの学びと気付きがあり、自分磨き、成長できた4日間でした。大谷先生をはじめ、日本を美しくする会、バスの運転手さん、学ばせていただいた方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

★★大阪府10代 男子学生★★

今回は、先月に続き二回目の参加でした。

先月の活動以降、自分は本当に現地のために何か役に立てたのかと、消化しきれない思いがずっとありました。

しかし、今回金華山に入らせていただいて、まず始めに前回活動した場所を見たときに、想像していたよりもきちんと整備されていて、僕たちがやったことは無駄ではなかったんだと実感できました。また、僕たちが手をつけられなかった箇所も整備されていて、この一ヶ月の間に誰かが引き継いでくれたこともわかり、感謝の気持ちを感じられました。しかし、貯水池の上の登山道は、岩が崩れていたり木が倒れていたり、まだまだ完全ではないとも感じました。

もう一つ大きく感じたことは、ガレキはほぼ撤去されつつある中で、次にどんなアクションを起こせばいいのか、ということ。街の再現や建設、ガレキの受け入れは政府が動かないとどうし

ようもありません。そこで、今後のボランティアに求められることは、仮設住宅に入居されている人たちの心のケアや生活の補助だそうです。そうになると、ガレキの処理などとは違い、結果は目に見えにくいですし、一度やれば終わりというわけでもないです。そうなれば、短期よりもより長期の滞在が求められることになります。震災から一年が過ぎ、社会の被災地に対する思いが薄れている中で、次のステップに入ったことでより高い質、思いが求められるのかなと思いました。

★★大阪府10代 男子学生★★

今回が初参加でした。向こうにつき石巻を通っていたときの感想はまだまだ復興はこれからだなと思いました。周り一面なものがないし、がれきや車の山などがあり、やつと道路が出来ている印象がありました。もし自分の地元がなくなったらと思うと許せない気持ちです。街だけでなく一回の津波で色々な大切なものがなくなる津波のおそろしさを感じました。何万と亡くなられておられ本場に特に自分たちは生かされてるのだなと思います。

大川小学校では本当に自分が見ていいのか。そう思えるような感じでした。しかし僕たちができることは、犠牲になった人たちに手を合わせるし

かできないのです。いろいろな思いがああ場所にはあるはずですが。だからこそ生かされてるのです。事故や災害で亡くなるほど、諦めきれないものはないはずですが。でも関西でもいつどうなるかわかりません。だからこそ一日一日無駄にできない、無駄にしてはならない。そういう気持ちになりました。でも、亡くなられた人たちに気づかされて自分が情けないです。自分自身がふらふらしているのがあり、本当に自分に弱いし、楽な方へ逃げていつてるのもわかっていました。でもなかなか行動移せない。そこでこの会を知ってなにか得られるはずだと思ったのです。

すごく充実した四日間だったし、色々なことを得ることができました。自分のなかで一番は金華山での掃除でした。正直大学にいつて掃除をやった覚えがなく、もくもくと自分の周りを掃除しながら、ここ最近の自分と向き合っていました。すると周りがきれいになるたびに自分の心のきれいになっていくような気がしました。きれいにしたら、なんか幸せになりました。ずっと「いいことがない」とか言っていたけど、そうじゃなくてどんな小さなことでも、そこに気持ちがいってれば幸せに感じるんだと思いました。そういや、こんなこと高校のときも言われたような(笑)身をもって感じました。掃除の力つてすごいです。あまり皆さんとお話を出来てないです。自分のな

かで人に対してなかなか心を開けません。だから次回参加できれば皆さんの生き方や考え方を知りたいです。

本当にマイナスのことばかりでした。この会ですごいプラスのエネルギーをもらえました。感謝しています。自分も周りにエネルギーも与えられるような人になります。まずは自分がポジティブに素直に何事も本気で生きて行きます。

最後に正直なことは、向こうで掃除をしたのもよかったことですが、なにより自分の心も整理整頓できたと思えるのでとてもスッキリしているのです。自分ではなんも変えることができなかったのに皆さんとの四日間が自分のなかで変えるキッカケが大きいです。本当に皆さんに感謝です。ありがとうございました。

★★大阪府10代 男子学生★★

今回はじめてまして復興活動に参加させていただいてまず感じたことは津波の恐ろしさです。テレビで見たのと実際その場に行つて見たのではまったく違っていて門脇小学校、大川小学校で見るとき小さな命がたった一度の津波で奪われたと思うと心が痛み一生忘れない光景となりました。思います。

金華山では道路の整備や清掃といった活動を

行い目標にしていた自分にできることを精一杯やりきるということを達成できたと思います。

二十八日の夜のミーティングではDVDを見て誰にでもできることはなにかあると考えさせられたことが沢山あったり今回来ていた皆さんのボランティア活動に対する思いや、ほとんどの方が年上なので人生経験などが聞けてとてもためになりました。

二十九日の昼ごはんを津波で家や家族を亡くした方々が経営しているお店で食べたときにみんな辛い顔をまったく見せず笑顔で話をしてくださり逆に元気をもらったような気がしました。最後に今回ボランティアに来たのは一緒にボランティアに参加した皆さん、二名のバスの運転手さん、リーグ戦中にもかかわらずボランティア活動やかないかと声をかけてくれた宮崎監督をはじめ首脳陣の方々のおかげなので感謝したいと思います。感謝の気持ちを忘れずこれから過ごしていきたいです。

★★大阪府20代 男子学生★★

今回ボランティア活動に参加させて頂いてとても学ぶべきことがたくさんあり自分にとってプラスになりました。私は二回目の参加で、今回金華山にいかして頂きその中で現地の方々と

も会話をすることができましたし、ボランティア活動の皆様方も会話をすることができ話を広げることができました。私がこの会に参加できたのも私一人の力では決してありませんし、周りの方々のお陰だと凄く思っています。そして作業の中で私達は只作業をしているだけに現地のの方は凄く『有難う』と言ってくれます。本当の意味での『有難う』がわかった気がしました。

小学校にも行かして頂きました。やはりいつ見ても言葉にはできない、光景でした。そんな中まだ、四人の子供さんが今だに見つかっていないことを聴き、とても悲しくなりました。そのまだ見つかっておられない子供さんの親が毎日スコップや、シャベルカーなどで、土を掘っていると聴きました。それでも見つかったのは下半身の部分で上半身はまだ、見つかっていないそうです。一年以上が経ってもまだこんな状況があるということです。復興はまだまだと言うのが現状で今からが始まりだと思えました。今回ボランティア活動に参加させて頂き私達が出したことは小さいことかも知れませんが、でも決してそれは無駄ではないと思いますし、行くことによって、何か絶対に出来ることはあるし自分自身得るものもあります。今後も様々な活動に取り組んで行きたいと考えています。沢山の気づき学び人との繋がりの大切さを改めて勉強できました。本当にありがとうございます

ございました。最後にバスの運転手さんや共にごぶ会に集われた皆様、とても感謝しています。またそれに気づかせて頂いた回でもありました。

★★大阪府10代 男子学生★★

今回私は初めてこの復興ボランティアに参加させていただきました。以前から大阪産業大学野球部では何度も東北のほうに足を運ばせていただいていた。そして毎回活動内容や現状をみんなの前で発表してくれていましたので、是非今回は自分の目で活動したいと思い参加させていただきました。まずはJR尼崎駅に集合した時から非常に周りの人の協力があつてのボランティアなのだと再確認しました。監督さんや参加者の方からの差し入れをいただいたのもそうですし、バスの手配や船の手配など時間が経つにつれてさらに協力していただいているのがまさにまざとわかりました。

まずはバスでの自己紹介から始まりまずはやはり今回一緒に活動させていただくわけですからみなさんのコミュニケーションも大切だと思っていたので少しでも交流を持つと思っていましたので最終日までにはだいがコミュニケーションも取れてよかったと思います。

そしてまず最初は門脇小学校に降りましたが

想像、そしてニュースで見えていた以上の悲惨さでした。やつとがれきりが取り除かれたというような感じでした。

そこから今回活動場所の金華山に向かいましたが周りはとても自然豊かで、桜も満開になっていました。やはり道や船着場前の建物を見ると津波と台風の被害を受け悲惨な状態でした。自分は今金華山で行われる神輿のお祭りで歩く道に土嚢や砂利をしくという活動をしました。今回は復興のための祭りということなのですが神輿を担ぐ方々は家族や友達を地震で亡くされた方々が担ぐというのを聞いてどうしても少しかきてその祭りを開催するための糧になることかと思っています。しかし大谷先生もおっしゃっていましたがやはりこの地に来ることが一番意味があるとおっしゃっていたので今回参加させていたでいて、自分もなにか少し今後日常生活で変わることができのではないかなと思います。しかし一番はこの悲惨な状態の東北地方が一日でも早く元に近い状態に戻ってくれることを願っています。そのためにもこれからも機会があればまた参加させていただきたいとも思いました。今回は色々支援していただいた方々や連れて行っ下さった方々に感謝いたします。ありがとうございます。

★大阪府20代 男子学生★

東北地方の方々の皆さん。大阪産業大学野球部の佐伯 郁也です。今回自分達は、四月二十七日

から三十日まで石巻ボランティアに生かされても
らいました。今回自分にとつては二回目でも最初の
ボランティアではやり残したことがあったし、自
分を変えなくてはならないと思つたので今回
参加させて頂きました。

まず最初に二十八日の朝は門脇小学校で二十
九日昼、大川小学校に足を運んで見ましたが津波
の影響でほとんど流されていて言葉を失いまし
た。更に、この小学校の場で沢山の命を失つてし
まったと思うと心に響いてします。その後、二十
八日から二日間、金華山黄金神社の所で作業を行
いました。二十八日の夜はボランティアのメンバ
ーでミーティングを行いました。みんなそれぞれ
個性で沢山の人々に触れ合つてコミュニケーシ
ョン取ることができて良かったと思います。二十
九日の作業が終わった後、津波の影響でお店をな
くなってしまった方々の経営するお店で昼飯を
食べましたが笑顔で暖かく出迎えてくれました。
今回の三泊四日で学ぶことが沢山あって良かつ
たと思います。命の大切さを知ることが出来たと
思います。短い期間になりましたが貴重な経験させ

て頂きありがとうございます。また機会があれば
参加したいと思います。ありがとうございます。

★大阪府10代 男子学生★

三月に続いて四月も自分は石巻のボランティ
アに参加させて頂きました。今回も金華山で
の作業となつて、もうすぐ行われる祭りに向けて
の準備が主な活動内容でした。野球部は二つのグ
ループに分かれて自分のグループは港の近くの
御神輿が止まる所の整備をしました。この祭りは
震災が起こつて以降、初めての祭りだという話を
聞いて自分達が頑張れば頑張るほどいい祭りが
できるという思いで作業に取り組みました。今回
のボランティアでも、全ての作業を丁寧にするこ
とが大切という事をしっかりと意識して作業に取
り組みました。御神輿を担いでいる人が怪我をし
ないようにその場所を整備しました。まもなく行
われる祭りが無事に終わりを迎えることができ
れば自分はとても嬉しく思います。初日の活動を
終えた夜に震災についてのDVDを見ました。そ
こで自衛隊で活動している男性のお嫁さんがそ
の男性に送ったメールに対する返事が自分の中
ですごく印象に残っています。自衛隊として東北の
ために現地で活動しているというプライドが伝
わってくるようでした。しっかりとしたい意味

でのプライドを持つことで頑張れることがある
とこのDVDを見て思いました。自分も大学の野
球部の一員としてのプライドをしっかりと持つ
てこれからも生きていきたいです。

★大阪府20代 男子学生★

自分は今回参加して三回目でした。尼崎から十
数時間かけて石巻に向かいましたが、やはり復興
にはまだまだ時間がかかるな。と思いました。金
華山には初めて行きましたが、津波の被害もそう
ですが台風の被害もあり土砂崩れがすごかつた
です。

僕たち野球部はみなさんとは別の作業でほぼ
力仕事でしたが僕たちにできることと言えばや
はり力仕事です。すごく頑張りました。土嚢袋
三十袋を百段近くある階段を登り運んだり七十
kgの土嚢袋をトラックに詰めてまた下ろしての
繰り返しでした。すごく疲れましたがやはり誰か
のために何かするってなぜか心がスツとして気
持ちがよかったです。先生方は掃除の時の姿勢が
びっくりするほど良くて野生の鹿などもいてそ
のフンも手で集めてたのはびっくりしました。

大川小学校で手を合わせましたが胸に詰まる
思いがあり、涙が溢れそうになりました。僕自身
身近な存在やった大切な人を昨年亡くし、人はこ

れ以上涙が出るのか?と言うほど涙がでました。すぐ悲しい思い悔しい思いを経験しているから、大川小学校に着いて祭壇を見るとやはりこみ上げてくるものはありました。今僕たちは本当に一日一日感謝の気持ちをもって生きて行かないといけないと強く思いました。短いボランティア活動でしたがみなさんおつかれさまでした。ありがとうございました。

★★大阪府20代 男子学生★★

今回石巻のボランティアに参加させていただき、毎度の事ながら本当に自分にとって良い勉強をさせていただきました。震災から一年がたち、被災した方々の心も、被災地から復興地と呼ぶようになった事から少し前向きになってきているのではないかな。と思うようになりました。今回三回目の参加となりましたが一回目よりも二回目、二回目よりも三回目、と自分の中で大きく成長できていると実感するようになりました金華山で作業をさせていただいている時間、目配り、気配りをして視野を広くもちました。他のボランティアをしている方々の動きを見ていると本当に丁寧に腰を低く作業をされていたので自然に自分の姿勢も低くなりました。人の手でしかできない、「心を込める」という事を皆さんが実行さ

れていて、復興地を思いやると言うことは、こういうことなんだ。と思いました。

生徒の七割が亡くなった大川小学校では、自分の半分の時しか生きれなかった子どもたちがたくさんいて本当に心が痛みました。生かせてもらっている自分達にはどうすることもできませんが、与えられた命の使い方を考え、精一杯生きる事が残された自分達のすべき事なんだと思いました。今回本当に石巻のボランティアに参加させていただけ良かったです。ありがとうございました。

★★大阪府20代 男子学生★★

金華山での作業が最後というのを聞いて、先月に続き今回もボランティアに参加させていただきました。金華山へは船で行くため、船乗り場まではバスで行くのですが、今回は初めてその道中にある門脇小学校の前にバスを停車してもらい徒歩で門脇小学校のすぐ近くまで行くことができました。小学校の裏には山があり生徒は、そちらに避難して無事だったと聞きましたが海岸から五、六キ離れているにも関わらず建物は一階はもちろん、一番上の四階まで被害を受けぼろぼろになっていました。バスから降りて小学校を目の前にしたとき改めて津波の脅威を感じました。

そのあと船に乗り金華山での流れは十七時頃まで作業く旅館を貸していただき宿泊く午前中作業という感じでした。今回の作業は鹿の糞の掃除や、ぼこぼこになった道の補修などでした。短い時間のボランティアとなったのですが、それでも現地の方はありがたいと言ってくれました。ありがたいと言ってもらうためにボランティアをしようというより本当に気持ちがかもっているありがたいので、自分もやってよかったなと思うことができました。そして牡鹿半島に船で戻って昼食をとりました。私は前回に続き今回も同じ店に入りました。しかし今回も、どこまで聞いてもいいのか、嫌な顔されたらどうしようなど、いろいろな事を考えてしまい、あまり店の方と話すことができませんでした。次回はいつ行くことができるかわかりませんが、行くと決まれば少しも現地の方と話をし、決して忘れてはいけない三月十一日の出来事を私の周りだけでも伝えていきたいです。

★★大阪府20代 男子学生★★

このボランティアに参加させていただき、本当に感謝しています。色々な人がいて、職業、年齢、出身地、皆さん様々な方々と出会えたことが何よ

りも嬉しく思いました。野球部として参加させて
いただきましたが、力仕事の部分では役に立た
かと思えます。復興は思った以上に進んでおらず、
しかし、確実に進んでいます。それは、今回参加
した人だけの力だけではなく今まで活動した全
ての人たちの繋がりがあらずです。小さな繋が
りでも大事にしなければならぬと思えました。
復興地では、様々な場所に立ち寄りました。街の
シンボルでもある、鯨の缶が、津波の威力で流さ
れているのを見ました。津波の威力を、再確認し
た場面でもあります。小学校でも、窓は全部割れ
て、校舎は波でえぐられていました。そんな場面
を、自分は今まで生きてきた中で見たことはあり
ません。自分は二回目の参加なのですが、一回目
の衝撃と変わりませんでした。その光景とは逆に、
自分達が作業させていただいた金華山は、非常に
美しいものでした。しかし、山道には、石が崩れ、
道は整備されておらず、確実に地震の被害があり
ました。美しい景色の中にも、津波の爪痕は残り、
観光地として有名な場所なのに複雑な気持ちに
なりました。

作業を終えて、部屋に戻ると京都大学の相賀さ
んと話をする機会がありました。相賀さんは、ノ
ーベル賞を狙える程の研究をされている方です。
あまり、勉強ということに深く触れていない、自
分にとっては貴重な話を聞けました。何よりもあ

きらめないのが大事で、ひとつの小さな成功を大
切にするんだ。と言われていました。それは、野
球でも繋がっていると思いました。そんなに向上
心を持てる人は、必ず成功するんだろうなと感じ
ました。

夜のミーティングでは、グループになつての活
動報告をしました。それぞれのグループに、意見
がありました。大切なことは、生きていることに
感謝するということが、全てだと思います。そ
こに繋がっているし、生きていられるからこそ今
があるのです。生かされている自分はどれほど幸
せなのか、改めて実感した瞬間でした。帰りに、
大川小学校に行きました。夢半ばにして命を絶た
れた小学生達は、もつと生きたかったし、大人に
なりたかったはずです。津波に破壊された校舎は、
普通に授業を受けている子供達が思い浮かびま
しました。今までの自分の人生を思い返す時間にもな
りました。このボランティアに参加させていただ
いたおかげで、人として大きくなれたと思ってい
ます。ここで、出会えた人とのご縁を大切にし、
これからの人生の糧として歩んでいきたいです。